

金野 始まりはそうですね。学術論文を世界の裏側まで届けるために、すぐわかるために開発したもの。

関 グローバリゼーションと言いながら、どんどん縮小している感じが面白くない。知らなくていいことをいっぱい知らされるようになった。そういう意味ではコロナ禍になってからは、なんだかんだ言うようになって、憎まれっ子みみたいな感じであることを楽しめるようになってきたね（笑）

三田 橋野くんはなにかないですか？若者代表として。

橋野 「最近の若者は」と言われることもあるけど、意外と歳を重ねている方のなかにもあんまり中身のない人がいるなと感じることがあります。そこを突き詰めていくと世代・年代というよりは、幼い頃から何を考えて、何を見て、どういう生活をしてきたかが影響しているんだと思います。拓海くんみたいに、若者でもすごく芯があって、考えているなっていう人が周りにたくさんいるなと感じてます。そういう若者やここにいらっしゃる先輩方と、今こうやって内容の濃いお話ができたり考えを共有できるのは、やっぱりその人が何を体験して、どういう価値観を持って、どういう考え方をしながら生きていくかというところで変わってくるんだなと思います。

三田 歳をとってもあまり考えていない人は確かにいるよね。でも、若くてちゃんと考えている人が同世代の中で生きづらかったりするとかわいそう。そういうことってあるんですか？

橋野 会社に同じような意識を持っている人がいるかないかで、職を変えたり、メンタル的にやられてしまった友人はいます。せっかくいい企業で働いても、ロボットみたいな上司とか先輩ばかりで、「俺なんのためにここで働いているんだろう」って考えて職を変えた人もいますし、逆にいまでも小さい居酒屋でアルバイト勤務している友人は、今のお店の大将や先輩の元で勉強したくて働いていて、ゆくゆくは自分のお店を持つと考えている人もいたりするので、環境というか同じ場所にいる人たちとの温度差があるかないかが重要なのかなと思います。

関 そういう意味で言えば、若い人たちはいいかもしれないね。空気もゆるいし。また話は違うかもしれないけど、喫茶店ではよく「携帯電話お断り」とか張り紙をする店が多いんですけど、俺はそれはやりたくなくて、自由であることが大事だと思うんですよね。ただ、お断りとはしないけど、そうじゃない方向にはずらしたいなと思って模索しているところがあって。ここにいる時くらいは遮断しようよって促したいなと思って模索しているところ。

金野 それは話かけるんじゃなくて、気づかせるための演出をするってことですよね。

関 そうですね。今までの話を聞いていても思うんですけど、なんとなくテーマは「チャーミング」とか「魅力的」であることだと思っている。人の気持ちを惹く「人間らしさ」が大事。逆に言えば、僕がその辺で缶コーヒー飲んでたら、人はどう思うのかなとか考えたりもするね。

栗澤 私がアマゾンで本を読むようなものでもんね。

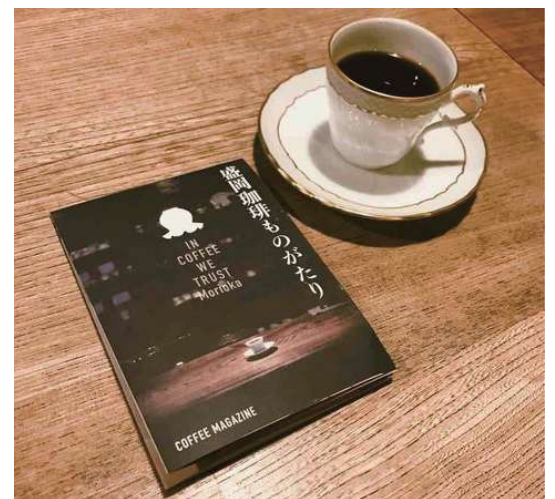
関 それに気づかされたのは専門学校で講師をやった時に、「先生はどの缶コーヒーが好きですか？」って言われたことがあって。「俺、缶コーヒーなんて絶対飲まないな」って思いながら、でも昔トラックの運転手をバイトでやっていた頃は「長時間運転にはジョージアだな」と思った時があったからその頃のことを思い出して、「ジョージアが好き」って答えたけど、ドキッとしたんですよね。だからそれを逆手に取ったらどうなるのかなって。そういうのと同じようにこのお店で携帯、電波が遮断された時に人がどう動くのかに興味がある。

三田 地球を75周した人が釜石にいたんだけど、その人は昔は太陽の方向と影だけでサハラ砂漠を縦断してたんだって。今はGPSも使うらしいんだけど、時々自分がどこにいるかを確かめずに、全面的にGPS頼っていたらいざという時に大変なことになるっていうお話をされていて面白いなと思いました。あとは気づくことが大切で。砂漠でボルト一個なくしても落としたことに気づかなかつたら、何かあった時にバイクは動かない。それに途中で出会った人とか、かけてもらった言葉にすごい意味があったりするらしく。そういうことに気づけるのも重要だよな。

金野 そのあたりのセンサーが奪われている感じがしますよね、携帯電話で。気づきからすぐ答えを見つけてちゃいそうで、プロセスがない。

関 今のテレビがそうなっちゃってますよね。特にバラエティーが。ほとんど決まった人たちしか出なくて、本当の演芸とかが見れない。昔みたいに、雰囲気を持った人たちがちゃんとやれば面白かったのが、もう全然そういう芸がなくなっちゃった。これから、次の世代がどう生きるんだろうね。あ、そういえば今さわさんと、盛岡コーヒーフェスの会報を作っているんですよ。

三田 これは栗澤さんが書いたやつ？



盛岡珈琲フェスティバル会報誌として新たに始動した「盛岡珈琲ものがたり」を発刊するなど、機屋さんが掲げるキーコンセプト「わたしの真ん中に珈琲があります」を様々な試みで今後も展開していかれるとのこと。見逃せません。